

# Kandai Style

2016.1 Vol.447  
関西大学通信

あけまして  
おめでとう  
ございます

『関西大学通信』  
バックナンバー出演者の  
あの人は今!?

130  
KANSAI  
UNIVERSITY

# 『関西大学通信』 バックナンバー出演者の

# あの人は今!?

現在とこれからの  
目標を教えてください



2014年11月号「シンクさんアクトくん」に登場した  
総合情報学部(当時3年次生)の西帯野さん

**Before** 当時は…こんなこと、こんな目標

「自分を見つける機会」を創造。一人ひとりの願いを貼り付け光を灯す「願い玉プロジェクト」の学生代表を務めていました。



2013年11月号「特集」に登場した  
法学部(当時1年次生)の竹内さん

**Before** 当時は…こんなこと、こんな目標

応援団リーダー部、たった一人の女子部員。女子だと思われない迫力ある応援ができるようになりたいと思っていました。



2015年1月号「シンクさんアクトくん」に登場した  
環境都市工学部(当時3年次生)の堀井さん

**Before** 当時は…こんなこと、こんな目標

店舗設計からインテリアコーディネートなどの空間デザイン、廃材からの家具づくり。「自分の商材は自分で、自分で作った建築を売ろう」と考えていました。



2013年6月号「特集」に登場した  
人間健康学部(当時2年次生)の太刀川さん

**Before** 当時は…こんなこと、こんな目標

ハンドボールU-20日本代表候補選手の強化合宿に招集。厳しい練習と選考の結果、日本代表に選抜されました。



## -After-そして今!!

「願い玉プロジェクト」を発展させています。

昨年3月には初めて海外で、11月には大阪府内の高校でもプロジェクトを実施。12月には、企業が社会とともに発展していくための活動(CSR)に関するプレゼンテーションを行う場で、「願い玉プロジェクト」を披露しました。このプロジェクトは、卒業するまで続けていきたいと思っています。



西帯野 蓮さん  
総合情報学部4年次生

## -After-そして今!!

応援団として関大のために何ができるのかを熟考しています。

当時、常に私は「応援団で何ができるのか」と、自分中心な考え方をしていました。しかし後輩ができ、入学式や学園祭など学内行事での演奏を構成し、応援団をまとめる役職「団渉内」を務めてからは、応援団全体をもっと良くしていくためには…と深く考えるようになりました。



竹内 美沙保さん  
法学部3年次生

## -After-そして今!!

インテリアコーディネートをさらに極めています。

昨年夏に応募したインテリアデザインがコンペ入賞!!11月開催の国内最大級のインテリア展示会「JAPANTECH2015」で展示されました。また、当時の家から引っ越し、新たな住まいの一角をコーディネート。メンズインテリア雑誌「smartインテリアBOOK」(宝島社)に掲載されるなど、成果が自信に繋がっています。



堀井 登文さん  
環境都市工学部4年次生

## -After-そして今!!

女子ハンドボール部キャプテンとして、チームを引っ張り、昨年引退しました。

4年次生で体育会ハンドボール部女子のキャプテンに就任。チームでの練習内容を見直し、学生ハンドボール界2強と言われる大学とも互角に戦うなど、創部最強のチームと言われるまでにメンバーを引っ張ってきました。最後の試合となる全日本学生ハンドボール選手権大会をベスト8で締めくくり、部を引退しました。



太刀川 明さん  
人間健康学部4年次生

### これから...

志望していた広告会社から内定を獲得しました。モチベーションをキープしながら、自分のアイデアで人の心を幸せに、生活・世の中をより良くしていきたいです。

### これから...

私たち応援団は関大の代表として活動していますが、果たして「関大」をしっかり理解しているだろうかと思われました。今年は応援団団長に就任することが決まったので、さらに関大を知り、応援団の愛校心を深め、応援団から関大を盛り上げるべく精一杯頑張ります。

### これから...

インテリアコーディネートをこれからも続けていきます。海外留学を予定しており、現地の生活様式・文化に触れて、インテリアに関する知識や視野を広げたいと思います。

### これから...

今年4月からは一般企業に就職予定。自分で決めた進路なので、根気強くやりがいや楽しさを見出し、新しい道を歩みます。もちろんハンドボールは社会人チームに所属しながら続けていきたいと思っています。



2015年3月号「関大トピックス」に登場した  
商学部(当時2年次生)の小池さん(体育会野球部)

**Before** 当時は…こんなこと、こんな目標

西宮神社の「福男選び」で二番福を獲得。20歳になる年なので、いっそう勉強に、野球に、頑張りたいと目標を掲げました。



2014年7月号「特集」に登場した  
社会安全学部(当時2年次生)の弘田さん

**Before** 当時は…こんなこと、こんな目標

復興支援団体「Investor(インベスター)」に所属。東北へのボランティアバスツアーなどを企画し、運営していました。



2013年6月号「特集」に登場した  
文学部(当時1年次生)の三村さん

**Before** 当時は…こんなこと、こんな目標

関西大学第一高等学校時代、日本拳法の全国大会に出場。女子団体戦で日本一となりました。大学でも体育会拳法部に入部し、個人・団体ともに活躍することを目標にしていました。



2013年6月号「特集」に登場した  
経済学部(当時1年次生)の高丸さん

**Before** 当時は…こんなこと、こんな目標

関西大学第一高等学校時代、日本拳法の全国大会に出場。女子団体戦で日本一となりました。大学でも体育会拳法部に入部し、個人・団体ともに活躍することを目標にしていました。



## -After-そして今!!

部活の練習や学業に、3年次生としての自覚が芽生えました。

2年次の時、体育会野球部が明治神宮大会へ出場したことをきっかけに、今までと気持ちを切り替え、部活に、学業に、より一層全力で取り組むようになりました。昨年の春のリーグ戦ではベンチ入り、秋のリーグ戦で初めてスターティングメンバーに抜擢。これは二番福のご利益というよりも自分の努力の結果だと思います。

### これから...

まずは今年の明治神宮大会に出場することが目標。皆が見ていないところでもひたむきに努力を重ね、関大を背負える選手になりたいです。当時から続けている「整理整頓」をこれからも続けていきます。

小池 裕也さん  
商学部3年次生

## -After-そして今!!

新たなメディアサービスの構築に挑戦しています。

当時力を注いでいた「Investor」や、その後自分で立ち上げた東北支援に関するネットワーク団体「Tohoku RE Days」を後輩に引き継ぎ、今はある試みに挑戦しています。NPO法人に寄付が集まらない問題に着目し、高所得者から寄付を募るWebサービスを考案し、ビジネスコンテストにも応募しました。

### これから...

今までの経験から、さまざまな物事への関心が高まり、視野も広がりました。将来は、これまでボランティア活動をする人を支援してきたように、私はプレイヤーではなく、コーディネーターの立場として世の中に働きかけていきたいと考えています。

弘田 光聖さん  
社会安全学部3年次生

## -After-そして今!!

長期のブランクを乗り越え、日本拳法ができる幸せを改めて感じています。

怪我のため1年間競技から離れていました。その間、部員のサポート役を務めながらも日本拳法と向き合う時間ができ、やはり自分は日本拳法が大好きなのだ改めて感じました。怪我も完治し、練習を重ねるたびに力も精神力も以前の状態に戻ってきているのが分かり、今は日本拳法をできることが一番の幸せです。

### これから...

4年次生になるので、自分のことだけでなくチームを意識し競技に打ち込みます。今は高丸さんの強さに頼っている所もあるので、私も確実に一本をとっていけるよう頑張ります。

三村 杏子さん  
文学部3年次生

## -After-そして今!!

全ての技を習得し上達させるため日々練習に打ち込んでいます。

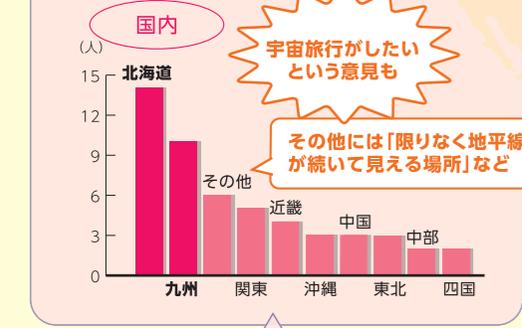
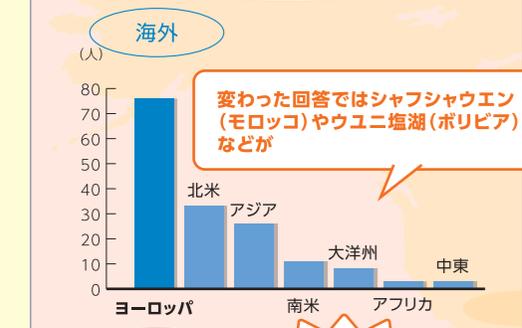
大学では高校とのレベルの違いを実感。高校時代の技だけでは通用せず、より多くの技の習得と練習が必要でした。厳しい練習の成果が実り、昨年に行われた数々の個人選手権大会で優勝。11月開催の団体戦、第60回全日本学生選手権大会でも優勝することができ、同大会5連覇を果たしました。

### これから...

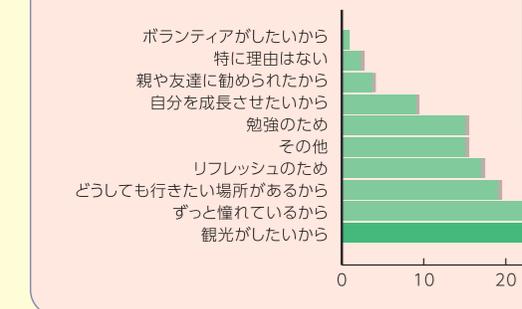
競技の中で自分の中の迷いを捨て、全力で攻め込んでいけるように技一つひとつの課題を克服。そして今年の個人戦も昨年に引き続き優勝を目指して頑張ります!

高丸 裕里さん  
経済学部3年次生

# Q4 あなたが今後旅行で一番「行きたい」と思う場所を1つ教えてください。(国内/国外問わず)



# Q5 そこに行きたいと思う理由・目的を教えてください。(複数回答可)



# 成長したこと、そのきっかけ (自由記述)

幕末の志士たちがこの場所で、今の学生以上に勉学に励み、日本のために自分が何をすべきか討論し合っていた場所だと思ふと感銘を受けた。研究に対する気持ちがより一層高まった。(旅行先:山口県萩 文学研究科M2 女子)

1カ月かけてキャンプをしながらアメリカ大陸横断をしました。日本人がいない中、世界中から集まった旅好きの人たちと一緒にだったので、英語が共通語でした。言葉の壁や文化・宗教などの違いも体験でき、それを乗り越えようと日々行動できたことは自分の成長に繋がったと思います。(旅行先:アメリカ大陸横断 社2 男子)

友人の希望で現代美術館に訪れた際にたまたま催されていたフランス人振付家のパフォーマンスを観て、魅了されました。見始めてしまったら食い入ってしまいました。芸術、特に現代アートは理解できないという固定観念があったのですが芸術についての理解や知識を深めたいと強く感じました。(旅行先:ニューヨーク 外3 女子)

サッカーのプロ試験を受けたのですが、チームに参加し激しいトレーニングを毎日行っていたので、肉体的にも精神的にも成長しました。中でも一番成長したのはコミュニケーション能力で、始めは英語もイタリア語も分からないので、一人でいました。ですが、イタリア人はとても熱く、優しいので、ジェスチャーやアイフォンの翻訳を使って話し掛けてくれました。やがてジェスチャーや表情でコミュニケーションが取れるようになり、プロ試験も合格できました。プロ試験に受かったことはもちろん嬉しいですが、それ以上に、消極的だった自分の性格をガラリと変えてくれたことが嬉しかったです。(旅行先:イタリア・モンテフィアスコネ 人4 男子)

ダイビングをしたときに、波のせいで自分の思うとおりに動けないが、そんな中で魚たちは私の目の前を悠々と泳いでいく。海の中では人間も魚も同等だと思った。水族館や映画などで海の中のことは知ったつもりになっていたけど、実際に自分の目で見たものは本当に感動的で自分がいかにせまい世界で生きているか、をダイレクトに感じられた。(旅行先:沖縄 人3 女子)

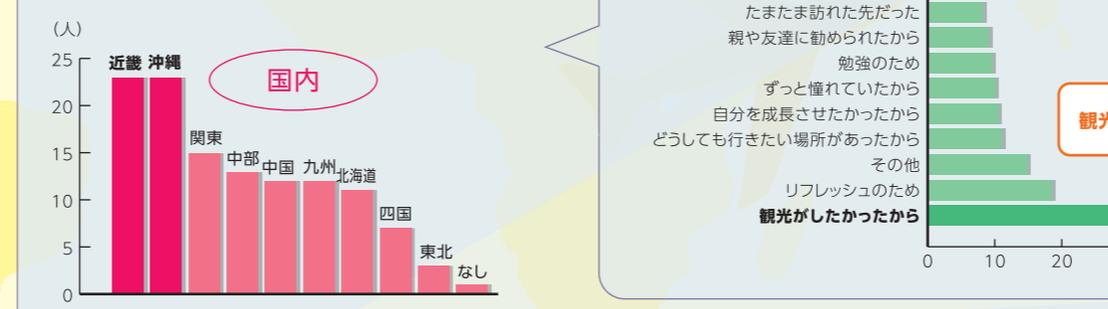
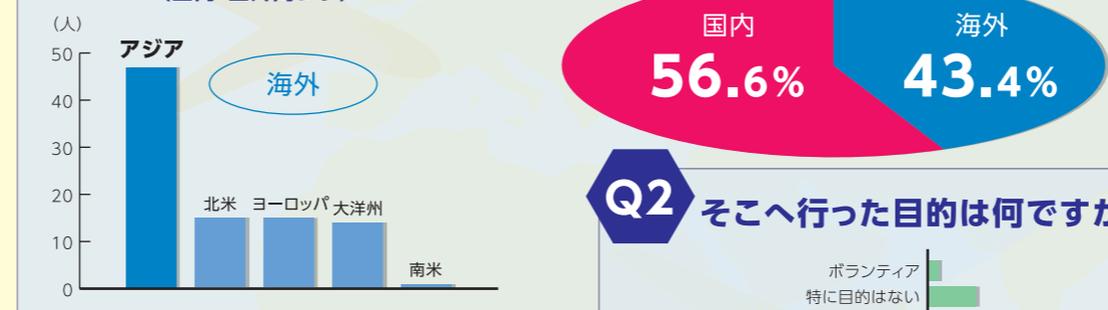
名建築のホテル兼マンションに泊まり、食堂でコーヒーを飲んでいたら住民が僕に「君はこの建物、場所が好きかい?」と質問しました。「はい、ここを見たくて日本から来ました!」と答えたら、「私もここが好きだ。好きと言ってくれてありがとう」と言われました。僕は建物を見るため、空間を体験するために海外にいきましたが、旅を終るからは空間だけでなく人々が愛する建築、人々が集まる場所を設計したいと思うようになり、目指す方向が少し変わりました。(旅行先:フランス・ドイツ 環部3 男子)

インドに到着した日に所持金の半分以上を盗まれたため、行く先々の町で安宿・安い食事を手探りで探しながら旅行を続けた。道中危険な目にあう度に自らの無知と甘さを痛感した。何がまずかったのかを反省して学び、適応力や、危機管理能力などが身に付いた。また、どうすれば切り抜けられるかを考えて実行に移す前向きな姿勢も身に付いた。(旅行先:インド 化生3 男子)

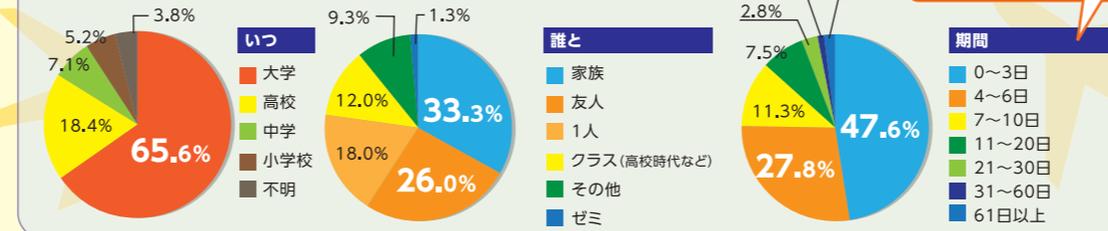
# みんなで一緒に考えよう。関大誌上教室 関大生と旅行

旅行に「行ってよかった」「心に残った」「人生観が変わった」と思う経験をした関大生にアンケートを行いました。まあこともあるようです。ただし、海外に行く際は外務省のウェブサイトのチェックを【アンケート期間】10月30日～11月16日【対象】関大生【回答者】212人(男子108人 女子104人)

# Q1 あなたがこれまで行った1つ教えてください。(国内/国外問わず)



# Q3 いつ行きましたか? 誰と? 期間は?



# 旅行で就職先を決めた

もっともっと北海道を楽しむためのコンセプト通販付きマガジン『northern styleスロウ』編集者 鳴海航紘さんよりメッセージ (2015年3月 人間健康学部卒業)

高校時代のニュージーランドへの留学経験から、大学に入ったら日本のことを深く知りたと思っていました。3年次の直前に1年間休学してママチャリで日本一周の旅へ。はじめは1日100kmのノルマを自分に課していたのですが、それではただ日本を一周しただけで日本を知ることにはならないと思い、1年間で日本一周という目標を捨て、本来の目的である日本を知ることと専念しました。そこから旅の質が変わりました。気になる土地があれば、ゆっくりその街を見て回り、地元の人と話をし過ぎておすようにになり、そのうち地元の人の家に泊めてもらったり、お手伝いをさせてもらったりするようになりました。一番長く滞在したのが北海道の富良野です。最終的には4カ月滞在しました。結局1年目の旅はそこで終わり、復学後3年次の夏休みに旅を再開しました。「のんびり」の旅に切り替えたことで、その夏も北海道から出ることはできませんでした。そして4年次の夏もまた北海道をママチャリで旅していました。そこで偶然、北海道のローカル雑誌「スロウ」の求人を目にしました。そのとき、直感的に「おもしろそう」と感じ、すぐにエントリーしました。面接はなんとジンギスカンをつつきながら。旅で経験したこと、旅をしながら考えたことを話しました。結果、何とか採用され、今は帯広で「スロウ」の編集者をしています。「のんびり」の僕の旅はまだ北海道で続いています。



# 関大生協トラベルカウンターで 関大生の旅行に携わって20年

つのだ 都野田賢司さんに聞く!!

Q. 関大生の旅行はどう変化してきましたか? 卒業旅行で言えば、以前は長めにヨーロッパなどに一度行くのが主流でしたが、最近では、グループを変えて、近場に何度も行く傾向が強いです。旅行全体で見ると、個人旅行が減りましたね。以前は、行き帰りの飛行機だけとって、あとは1カ月以上かけて海外を周る学生さんも多かったのですが、最近では国際情勢もあり、なかなかそういう旅行も難しくなってきたのかもしれない。

Q. 学生と接してきて、何か感じることはありますか? 情報があふれ過ぎて、かえって何を信じればいいのか分からない学生さんも多いように思います。ネットの中だけでなく、実際現地に行くことで、現実に直面し、海外で親切にもらったことに感謝して、「日本で同じように親切を返したい」と言う方がいて、成長されたんだな、とうれしく感じます。

Q. 関大生へのアドバイスをお願いします。 事前に調べて行くことをお勧めします。建物一つとっても、その由来などを知れば、観光も奥深いものになりますから。私自身、学生時代から旅行が大好きで、そのまま旅行会社に就職してしまいましたが、少しハプニングがあったほうが、後々笑い話になって覚えているものです。危険なことは絶対にいけません。せっかく旅行に行くのなら、大いにその土地の民族や文化を吸収してほしいですね。その際は、関大生協組合員であれば割引もありますので、ぜひ関大生協トラベルカウンターにお越しください(笑)。



# OPINION OF PROFESSOR 人間健康学部 小室弘毅 准教授

かつて大学生の間で読まれていた本に教養小説というジャンルがありました。ゲーテの『ヴェルヘルム・マイスターの遍歴時代』に代表される青年の自己形成をテーマにした小説です。そこでは旅は重要な要素でした。旅をすることによって人は成長すると考えられていたのです。フランスの作家、マルセル・ブルーストは「The real voyage of discovery consists not in seeking new landscapes, but in having new eyes. 本当の発見の旅とは、新しい景色を探るのではなく、新しい目を持つことだ」と言っています。新しいものを見るのではなく新しい自分になることが本当の意味での旅なのです。そんな旅をするにはちょっとしたコツがあります。それは当初の計画に固執せず、想定外を歓迎すること。アラスカの自然と人々の暮らしを写してきた写真家の星野道夫は、その他に生きる人の言葉として、次のような言葉をその著書に残しています。「Life is what happens to you while you are making other plans. 人生とは、何かを計画している時に起きてしまう別の出来事のこと。」ここでの「人生」とは「旅」と置き換えることも可能でしょう。旅とは、観ようと思っていたものは別のものに目を奪われる経験のことなのです。そしてそれが新しい目を獲得することであり、私たちが成長させてくれるのです。

# 次号(3月号・卒業記念特別号)のテーマは… 「将来を考える キャリアアップについて」

社会で活躍しているOB・OGに登場していただき、社会に出てからのキャリアアップや自己啓発などについてインタビューします。皆さんが将来について考える「きっかけ」にしてもらえれば、と思います。

1月号「関大誌上教室」アンケートプレゼント当選者の発表について

今号の「関大誌上教室」アンケート「関大生と旅行」にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。プレゼントの発表は、当選者のみ、インフォメーションシステム「個人伝言」で連絡します(1月8日に通知予定)。「関大誌上教室」のアンケートは次号以降も行う予定ですので、ご協力をよろしくお願いいたします。



## 金融業界／銀行員

### 株式会社三井住友銀行 井須涼子さん

大谷高等学校出身  
2015年法学部卒業

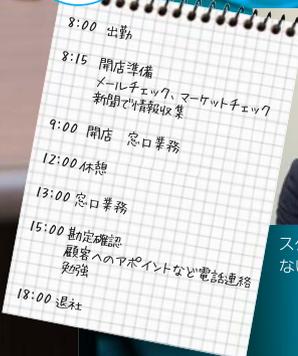
老若男女、すべての世代の人との関わりが  
銀行の仕事の魅力だと感じます。

笑顔のまぶしい井須涼子さんが働いているのは三井住友銀行山本支店2階にある資産運用の相談カウンター。入社1年目の今はまだ先輩とともに接客していますが、いずれは一人で対応する予定です。担当する資産運用の相談は提案型なので、顧客のニーズを引き出すには何よりも会話が重要となります。世間話のきっかけづくりや社会情勢など情報収集のため、就職してからは毎朝、通勤途中に新聞に目を通すことが井須さんの日課となったそうです。

元来、人との会話が好きだったので、学生時代のアルバイトも接客業ばかり選んでいたと言う井須さんは、就職も、多くの人との関わりを持つことができる銀行を希望しました。今の業務は、顧客の悩みや希望を聞いたうえで商品を案内するというもの。「お客様のニーズに合った商品をご案内でき、感謝の言葉をもらった時にやりがいを感じます」と言い、中でも印象深い思い出は「火事に遭ったお客様が相談に来られ、号泣されたこと」だそうです。思いのたけをぶつけることができたその方は、後日、井須さんに会うために再入店されたと言います。在学中にサッカーサークルのマネージャーとして人のサポートに徹していた経験とそこで身に付いた人に親身になる姿勢が、今の仕事でのそんなエピソードにつながるのかもしれませんが。

将来は、結婚・出産を経て、妻・母としての立場でも接客できるような行員を目指す井須さんは「堅い仕事と思われがちな銀行員ですが、優しい先輩も多く実際は自由な職場です」と明るく話してくれました。

ある1日の  
スケジュール例



スケジュール帳、気になる記事などを集めた備忘録、情報収集に欠かせない新聞、ペンなどのほか、電卓やPCも必需品です。

# VIVA!!

# 学び易



環境都市工学部 都市システム工学科

## 「社会資本計画研究室」

北詰恵一 教授

### 工学的アプローチで“住みよいまちづくり”を研究。

社会資本計画の研究を通じて、問題発見、総合的問題解決、実行計画作成、発表などのスキルを習得する。

社会資本計画研究室、北詰恵一教授のゼミでは、ダム、堤防、道路などといったハード面だけでなく、制度や情報システム、コミュニティなどのソフト面も含めた「社会資本」全体を考えた“住みよいまちづくり”をテーマとして研究に取り組んでいます。災害の発生などを踏まえて、人はどこに住み、まちがどう変わるべきかまちの変遷を分析。そこにはもちろん地域による特色・バックボーンや市民活動、住民の意見調整などのさまざまな条件も加わります。工学的なアプローチで調査・分析、計画立案する環境都市工学部は、時には学部の壁を越え、社会学部や文学部と連携することもあるのだとか。

この社会資本計画研究室ではまず、北詰教授がゼミ生に研究課題となる選択肢を提示し、そこから学生それぞれがテーマを決定。背景の整理と目的設定などを確認し、詳細な分析・考察といったプロセスを重ね、具現化していきます。ここでの研究の過程で仮に論理的に突き詰める必要があったとしてもゼミ生は問題解決まで導かなければなりません。ゼミ生が選ぶ研究テーマは、たとえば、南海トラフ地震の発生を想定した震災廃棄物処理についての「人口減少都市構造を踏まえた災害被害推計」(下記取材文に登場・小橋さん)や吹田操車場跡地の“健都”から発した吹田市・摂津市全体を対象とした「継続可能な健康実践プログラムを支援するまちづくりのあり方」(同・小西さん)などが挙げられます。

北詰教授は、学生の自主性を尊重し、ゼミ生の発表後の質疑応答やディスカッション、その進行を学生に任せています。学生に多くの発言の機会を持たせることから活発な議論が期待できるといいます。“まちづくり”に関わる仕事に就く学生が多いという社会資本計画研究室。習得した自主性や積極性でフィールドワークや市民活動への参加など、現場で皆と一緒に汗をかく「学の実化」を体現する社会人になってほしいという北詰教授の思いが受け継がれています。



小橋昭文さん(4年次生・大学院進学予定)

元はデザインコースでしたが3年次の時に北詰先生の合宿に参加し、研究の内容と先生に魅かれてこのゼミを選びました。将来は、自分の研究を震災後訪れたこともある東北の被災地への貢献に結び付けられたらと思います。



小西季衣さん(4年次生)

1年次の時に北詰先生の授業を受け、先生のゼミを希望しました。想像した通り、とても楽しい研究室ですが、自主性を尊重してもらえる分、このゼミを希望するのなら成績は大事。しっかり授業を聞き、勉強してください。



環境都市工学部  
北詰恵一 教授

まちを歩いているだけでさまざまな発見があります。街角、看板、建物など。このゼミにはぜひ、まちに興味を持ち、まちを見て楽しいと感じる学生に来てほしいですね。そういう日常でのいろいろな疑問や感想が勉強や研究のきっかけになります。ゼミ生には、感度よく、気付きの多い人であってほしいと思います。



# 648人の青春 — 関大寮物語 —

関西大学には5つの学生寮があります。「秀麗寮」(男子寮、定員181人)、「ドミトリー月が丘」(女子寮、同102人)、

「千里凱風寮」(男子寮、同54人)、「南千里国際プラザ留学生寮」(男女寮、同169人)、

「南千里国際学生寮」(男女寮、同144人)で、最大648人が暮らしますが、このうち最も古いのは秀麗寮です。

創設は1953(昭和28)年で、小学校の学習園だったのを買い取り、9室の寮に改造したのが最初です。

現在は鉄筋コンクリート4階建て(一部5階建て)で北棟と南棟に分かれ、このほど北棟のリニューアルを終えました。

62年の歴史には様々な青春とドラマが詰まっています。そこからこぼれ落ちた逸話を三つばかり。

## 「お電話とおかん」

携帯電話のない時代、寮にある一台の電話が、寮生と外部をつなぐ唯一の通信手段でした。外部から電話がかかると、昼は寮の職員が、夜は寮の当番学生が館内放送で「〇〇君、電話です」と伝え、呼ばれた寮生が各階にある子機を使って話す仕組みです。ところが長い長い廊下なので子機の受話器を握るまでには時間がかかります。特に若い女性からだと分かれば、早く受話器を取りたいのが人情。とはいえ館内放送で「〇〇君、女友達から電話です」と言ってもらうのも、ちとダサいし照れくさい。そこで寮生が相談して符牒を決めました。「電話です」の前に「お」がついたら、異性からだという合図です。微妙な差ですが、これですべて納まりました。もっとも「お電話です」のアナウンスで、脱兎のごとく廊下を駆け抜けて受話器を握ったら「おかん(母親)」だったのでびっくりした、という御仁もいました。(いつもは鈍くさい息子が、やけに早く出てきたわけですから、本当にびっくりしたのは、おかんの方でしょうね)

秀麗寮



11月22日に行われた秀麗寮の寮祭

応接室の様子

## 「奇妙なバイト」

寮生は先輩後輩の関係や一定のルールのもとで、集団生活をしています。「気ままな学生」では太刀打ちできない能力を、自然と身に付けるのです。そういう資質はアルバイトの発注側からすると魅力的ですから、さまざまなバイト話が持ち込まれます。いつ誰が始めたのか分からないのですが、寮生が奈良の山中に出かけ一日中ひたすら水を汲み続ける仕事で、毎年先輩から後輩たちに確実に引き継がれています。後出の大瀧さんも参加した一人です。

また一時期、周辺で放火事件の相次いだマンションで、管理人室に徹夜で詰めて警戒する仕事もありました。一見きつようですが、「徹マンできて万札もらえるぞ」と寮生の希望者が殺到したそうです。

## 「なぜだっ!」

秀麗寮創立40周年を迎えた1994(平成6)年に作られた記念誌「友愛」の一文は、バンカラ風が色濃く残った当時の寮生の暮らしを生き生きと描いています。

「バイトが終わる。今は1時半だ。疲れ果てて寮に帰る。階段の1段1段ですら体を痛めつける。そしてやっと部屋に着く。早く風呂に入って眠りにつきたい。しかし『なぜだっ!』僕は目を疑う』『スリッパが1足、2足、3足……。部屋に入ると奴らがいる。僕は心の中で叫ぶ。早く出て行け』。しかし実際は「そんな気持ちを押し殺してベッドに腰をおとしてやつらの会話に入り、時が過ぎて4時になる。もう明日の授業はどうでもよくなった」です。

「一昔前の学生寮」と思いきや、これを読んだ寮生の大瀧周平さん(商学部4年次生)に言わせると、「今も、何一つ変わりません」。「一人になりたいときでも、いやでも人がいる」状態だから、そのおかげで「いつも笑ってられる」そうです。現役で公認会計士試験に合格し、すでに大手監査法人で非常勤で仕事をしている学生から、麻雀や競馬に打ち込む者まで、181人の青春が交錯します。

南千里国際学生寮



南千里国際プラザ  
留学生寮



千里凱風寮



ドミトリー月が丘





## 文学部3年次生 大坂萌さん

世界中に広がった友達の輪は、私の人生の財産です。



「モンリオールの人々は、大阪人の性格と似ていると感じました。優しく、とってもフランクなんです」。そう笑顔で話すのは、今年の3月から8月までカナダ・ケベック州のモンリオールにあるConcordia大学へ認定留学していた、大坂萌さん。「苦手な英語力をアップさせたい」と大きな決意で留学したのですが、その留学生活は、トラブルから幕を開けました。

真冬にはマイナス40度にもなるモンリオール。そんな現地に到着したばかりの2日目の朝、大坂さんは外の空気を味わいたいと思い、ちゃんとした身支度もしないまま外に出たところ、ホームステイ先の家がオートロックだったため、マイナス20度の中、締め出されてしまうトラブルに見舞われました。近隣の人の助けを得て、結果的に無事家の中へ戻ることができた大坂さんは、この出来事から「たとえ英語が拙くても、気持ちさえあれば何とかなるんだ」と、肩の力が抜けたおかげで苦手意識のあった英語に臆することなく、誰とでもコミュニケーションをとる度胸がついたと笑います。

現地学生や留学生と親しくなる中で、文化・歴史・宗教などの面でカルチャーショックを受けることが度々あったと言う大坂さん。紛争地域に住み、日常的に身の危険を感じながら生きている人がいる現実など、日本と大きく異なる世界を知ることによって「世界のことをもっとよく知りたい、そして、改めて日本のことについても勉強したい」と考えるようになりました。

今も留学中に知り合ったさまざまな国の友人との交流を続けている大坂さん。5カ月間の留学を振り返り「一回りも二回りも人間的に成長できたと感じます」と自身の経験を踏まえて、「もし留学をするかどうか迷っている人がいるのなら、絶対にした方がいい」と熱意を込めます。そして、「留学前に、何のために留学をするのか、留学先で何をしたいのかなど明確な目的意識を持って大学生活を過ごしてほしいです」とアドバイスしてくれました。

将来は、苦手意識を克服した英語を使って海外の人と関わる仕事に就きたいという大坂さんは、これからも前を向いて走り続けることでしょう。

### 認定留学とは

所属の学部・研究科の承認を得て留学する制度で、専門科目を学ぶ留学と外国語を学ぶ中期外国語研修、そして英語研修の後にインターンシップを行う「グローバルキャリアアッププログラム(GCUP)」の3種類があります。留学期間は1学期間又は2学期間で、その期間は在学年数へ算入され、単位認定などの教学上の措置が受けられます(GCUPは1学期)。

認定留学の詳細については本学国際部のウェブサイトを確認してください。

<http://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/world/recognition.html>

次号(3月号)は卒業記念特別号のため、次回の「今月のシンクさんアクトくん」は4月号での掲載となります。お楽しみに!

# Moe Osaka

# 学部・研究科トピックス

## 法学部 / 法学研究科

### 期末試験に向けて

いよいよ期末試験の季節がやって来しました。期末試験が終了した後、われわれ教員は採点という名の地獄が待っていますが、学生の皆さんは楽しい楽しい春休みが待っていることと思います。きちんと単位を取得して、春休みを楽しい気分ですごすためにも、きちんと準備をした上で試験に臨んでいただければと思います。

また、試験は時間との闘いでもあると思いますので、どの科目にどのくらいの勉強時間をかけるのか等、時間配分にも注意してみてください。

(教学主任 田中謙教授)

## 文学部 / 文学研究科 東アジア文化研究科

### 大学院生がヨーロッパで研究報告



EUワークショップで、大学院生がベルギー・ドイツ・スイスの大学において研究発表・交流会を行いました。写真は、デュッセルドルフ大学における発表風景です。毎年、交流を行うことによって、院生同士の意見交換もますます活発になっています。国際化はこうした交流が基盤です。

(副学部長 原田正俊教授)

## 経済学部 / 経済学研究科

### 「日本学生経済ゼミナール・関西ブロック大会」の開催!

11月15日に、千里山キャンパスで「日本学生経済ゼミナール・関西ブロック大会」が開催されました。今年の大会には、関西ブロック所属の6大学(関西大学、京都学園大学、近畿大学、滋賀大学、立命館大学、龍谷大学)に加えて、兵庫県立大学、神戸国際大学のチームも含め、総勢75チームが参加しました。カジノ誘致の是非や地域医療におけるICT利用の意味など、現代的テーマをめぐるプレゼンで日頃の研究成果を競い合い、交流を深める機会となりました。

(教学主任 佐藤方宣准教授)

各学部・研究科のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

## 商学部 / 商学研究科

### 公認会計士試験、商学部生10人在学中合格!

平成27年度公認会計士試験の合格発表が11月に行われ、商学部生10人が在学中合格、卒業生10人が見事に合格しました(合格率10.3%)。商学部では、入学時から簿記・会計教育に力を入れており、CPA説明会、簿記コンテスト、答案練習会などを実施し、今後も積極的な支援をしていきます。



公認会計士合格祝賀会の様子

(岡照二准教授)

## 社会学部 / 社会学研究科

### スタジオリニューアル—音楽スタジオの併設—

第3学舎のリノベーション工事の一環として、これまでの「テレビスタジオ・編集室」を改修し、その一部を新たに音楽スタジオに作り替えました。使いやすいオペレーションシステムで、最先端の録音・音響設備を備えています。20人程度が入ることができるコントロールルームは、最新の映画館同様の音響・映像空間を実現しています(4Kモニターが設置されています)。映像や音楽に関する授業や研究会に活用する新しいスペースが生まれます。

(学生主任 守如子准教授)

## 政策創造学部 / ガバナンス研究科

### 政策提言シンポジウムを実施



11月19日に、関西大学千里山キャンパスにて、政策提言シンポジウム「地域コミュニティの再生と包括ケア構想」が開催されました。社会福祉協議会・片岡哲司氏の基調報告と石田ゼミ3年次生による政策提言が行われ、約150人の地域住民、学生・院生の参加がありました。

(副学部長 石田成則教授)

## 外国語学部 / 外国語教育学研究科

### 生きる上での姿勢

四半世紀前に世界中で読者を得た本「All I Really Need to Know I Learned in Kindergarten」は「どのように生きるか、何をすべきか、どうあるべきかについて本当に知る必要のあることは幼稚園で学んだ」から始まり、「Share everything」、「Be aware of wonder」など日々の生活での基本的な心構えが続きます。年始、私たちは一年の目標を定めます。それが何であれ、どの文化であれ、生きる上での姿勢を内省することも大切ではないでしょうか。

(入試主任 吉澤清美教授)

## 人間健康学部 / 人間健康研究科

### 博士課程後期課程が開設されます

2016年4月より、人間健康研究科「博士課程後期課程」が開設されることとなりました。人間健康研究科は、スポーツの競技力向上だけでなく、健康・スポーツ研究を通じて人間社会の健康と福祉に寄与することを目指して、2014年4月に修士課程が設置されました。学際的かつ実践的なカリキュラムと併せて、地域と連携して学びを生かす、というのが本研究科の特色です。博士課程後期課程の開設により、今後もさらに高度な専門性や実践的行動力を持つ人材の養成に努めていきます。

(谷所慶准教授)

## 総合情報学部 / 総合情報学研究科

### Sojo Out Stageを開催しました



12月10日(木)に、年に一度の音楽イベント「Sojo Out Stage(通称SOS)」を開催しました。メディアリテラシーを駆使した高レベルなCG映像を映し出す演出や歌唱力で魅せるパフォーマンスが相まって、学びの成果が存分に体现化されていたのではないのでしょうか。

(高槻キャンパスオフィス)

## 社会安全学部 / 社会安全研究科

### 社会安全学部生3人が学会から表彰

小山倫史准教授が指導する地盤災害研究室に所属する学生3人がこのたび表彰されました。平成27年10月9日に開催された地盤工学会の第50回地盤工学研究発表会において、保木勇介さんと中西由起さんが優秀論文発表者賞を受賞しました。平成27年11月14日に開催された平成27年度ふれあい土展第三回研究室対抗関西土木リーグにおいて中丁康希さんが奨励賞を受賞し、優秀なポスター発表を行った研究者として認定されました。

(亀井克之教授)

## 専門職大学院トピックス

### 法科大学院

#### 2016年度入学予定者があしのは法律事務所を見学しました。

理論と実務の架橋を図る法科大学院では、入学前指導プログラムの一環として、2016年度入学予定者を対象とした弁護士法人あしのは法律事務所見学会を11月18日に実施しました。当日は本法科大学院の専任教員であり弁護士法人あしのは法律事務所の代表社員弁護士である尾島史賢准教授をはじめ、本法科大学院修了生で現在弁護士として活躍している先輩たちから事務所概要の説明を受け、事務所内を見学させていただきました。先輩弁護士による弁護士業務に関するお話や、司法試験受験に対する心構えなどを伺い、入学後の勉強に向けてモチベーションを高める良い機会となりました。(法務研究科 大和正史教授)

## 併設校トピックス

### 関西大学第一高等学校

#### 「アメリカンフットボール部大阪大会制し、全国大会へ」

アメリカンフットボール部が10月18日に行われた大阪府大会決勝で関西大倉高校を7-6で下し、大阪府大会優勝を決めるとともに、大阪1位として全国大会出場を決めました。全国大会2回戦では広島城北高校を80-0で下し、迎えた準々決勝の関西学院高等部戦。相手に先制を許す苦しい展開も、第3Q同点に追いつき、第4Qで逆転する展開になりました。しかし、試合終了まで残り3分半で逆転を許し無念の逆転負けになりました。目標の日本一は達成することができませんでしたが、全国大会出場に際し、たくさんの人に応援していただいたことを感謝いたします。

(アメリカンフットボール部顧問 中村真一)

## システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部 / 理工学研究科

### 教員も学生もラストスパート!

新年を迎えるとよく今年の抱負は?など、新しい年を迎えるにあたってのお祝いムード一色となるのですが、大学生活では短い冬休みで一息つくとも一年の締めくくりに向けた慌ただしい毎日を過ごすこととなります。学生諸君が経験する秋学期試験を皮切りに、学部4年次生や大学院生、教員の研究成果発表の場となる第20回先端科学技術シンポジウムが100周年記念会館で1月21日(木)から22日(金)の二日間開催されます。今年は「安寧な社会の構築と持続技術」をテーマに、各分野の第一

人者をお招きした33件の特別講演・招待講演をはじめ、理工系を中心とした学内研究プロジェクトの研究成果発表、大学院生を中心としたポスター発表と、今年度の理工系のアクティビティーと研究トピックスが一目で実感できるのではないのでしょうか。2月には、卒業研究発表や修士論文公聴会など各学科で研究成果の発表会が開催され、研究室の垣根を超えた研究交流の場になっています。最後に3月の学外での学会発表で1年の研究の締めくくりを迎えます。この締めくくりの3ヶ月間を楽し

く過ごせるのかはそれまでの日々の努力の積み重ねですが、良い締めくくりを迎えることでさらに新しいアイデアを生み出すきっかけになることでしょう。

(化学生命工学部入試主任 松村吉信教授)



昨年度先端科学技術シンポジウムの様子

## Attention 大学からの重要なお知らせ

### 自宅にいながらマンツーマンレッスン 新設!『TOEIC®テスト対策コース オンラインクラス』受付中

エクステンション・リードセンターが開講する本クラスは、スカイプを活用し、フィリピン・セブ島にいる現地講師(TESOL有資格者)から日本にいながらマンツーマンの講座を受講するものです。開講期間は1カ月間、2月コースと3月コースがあります。7:00~25:00の幅広い時間帯から受講日時を選ぶことができ、インターネットにつながるパソコンさえあれば自宅からでも受講することができます。

TOEIC®テストのスコア向上を目指すとともに、実践的なコミュニケーション能力を身に付けましょう!



現地の講師(セブ島)



詳細については、ウェブサイト(スマートフォン対応)および学内各所に配架している「講座案内2015」をご覧ください。  
(<http://www.kansai-u.ac.jp/extension/>)



受講生(日本・自宅)

# 関大トピックス

## 「関西大学イノベーション創生センター」の工事が行われています

千里山キャンパスに今年9月中旬(予定)、「関西大学イノベーション創生センター」が竣工します。場所は、図書館と悠々の庭の間で、地下1階、地上4階建て。総合大学としての知の集積を有機的に活用し、関西大学としてのオリジナリティ溢れるイノベーションを創生します。これまで国の科学技術施策をもとに、産業界と理工系を中心とする連携活動や、文理融合型プロジェクトを推進しています。これからはさらに、人文科学・社会科学・自然科学系の枠組みを超え、学生・教員・企業・社会などの「交流と対話」によって、独創的な発想を生み出し、その具体化を目指します。同センターはそうした新たな機能を有しています。

1階には、「対話スペース・カフェ」を設け、多様・多彩な方々がリラックスして対話できる空間を設けます。誰もが参加できるセミナーも実施予定です。2階には、より具体化した課題を検討するスペース、事業化に至った場合のベンチャーオフィススペースも配置されます。



完成イメージ図

## 第2・第3回政策提言シンポジウムを開催

政策創造学部では、昨年度から学部行事として「政策創造学部学生による政策提言シンポジウム」を実施しています。この行事は、学生がテーマに沿って問題提起をし、解決のための政策提言を行うことで、問題解決能力と行動力の向上を目的として実施しているものです。今年度は、第2回を11月19日に、第3回を12月4日に開催しました。

第2回は石田成則教授のゼミ生による「地域コミュニティの再生と包括ケア構想」。ゲストスピーカーの大阪府社会福祉協議会の片岡哲司氏による基調報告の後、学生が「地域活性化に果たす社会的企業の役割」と「地域コミュニティ再生のための住民間相互扶助」について事例調査報告を行いました。

第3回は岡本哲也教授のゼミ生による「人の流れを千里の未来へ:学生と考える千里ニュータウンの未来」。ゼミ生は千里ニュータウンの現状報告と問題点を発表し「シェア畑を通じた地域交流」「保育サークルの運営を通じた地域交流」を提案しました。千里市民フォーラム代表の山本茂氏は、千里ニュータウン誕生の経緯や現在にいたるまでの歴史、地域活性化への取り組みと今後の課題について説明し、ゼミ生とのパネルディスカッションでは、有意義な意見交換が行われました。

政策創造学部は、学生が主体となり企画・運営を担当する「政策創造学部学生による政策提言シンポジウム」を今後も積極的に開催します。多くの方のご参加をお待ちしています。



石田ゼミ発表の様子



岡本ゼミ発表の様子

## 体育会ラグビー部が、全国大学ラグビーフットボール選手権大会に出場決定

11月29日に大阪市鶴見緑地球技場で行われた関西大学ラグビーAリーグにおいて、体育会ラグビー部が近畿大学と対戦し、36対28で勝利しました。

この結果、Aリーグ4位が確定し、47年ぶりとなる全国大学ラグビーフットボール選手権大会への出場が決まりました。

大学選手権セカンドステージでは、全国の強豪大学相手に健闘しましたが、惜しくも次のステージに進むことはできませんでした。今年のラグビー部の躍進に期待します。(写真提供:関大スポーツ編集局)



全国大学ラグビーフットボール選手権大会への出場が決まり、喜び合う選手たち

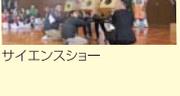
## 「キャンパスママまつりin関西大学」を開催

「キャンパスママまつりin関西大学」が12月13日、千里山キャンパスで開催されました。大人から子どもまで、多くの市民やOB・OGの皆さんに気軽に大学に来て、楽しんでもらうことを目的に開催したイベントで、全国規模で展開されている「ママまつり」が大学で開催されるのは史上初(関西大学、NPO法人関西大学カイザーズクラブ、NPO法人チルドリン共催)。

「各種スポーツ体験」、参加者体験型の「サイエンスショー」、「試せる、学べる、創れる、癒される」体験ワークショップ&ステージ企画満載の「ママまつり」、広大な千里山キャンパスを巡る「大学探検ツアー」などのイベントが行われ、晴天の中、訪れた親子連れは、珍しい体験に目を輝かせ、充実した一日になりました。



ママまつりステージ



サイエンスショー

## 関大人 四方山話 ◆「小倉山を守ろう」文学部 リチャード・ドノバン助教



『百人一首』のかるたで遊んだことはありますか?もしかしてこの正月にも? 京都嵐山にある美しい小倉山が藤原定家の和歌集の元になしたが、最近粗大ゴミの不法投棄や温暖化による木の病気にやられている。PTO (People Together for Mount Ogura) というボランティア団体は、日本の文化と深い絆を持っているこの山を守ろうとしている。毎年数回峠まで登り、ガードレールにロープを結んで森の中のゴミ捨て場まで下りる。私も参加したこの8年の間に、

洗濯機、バイク、車まで見つかった!下を流れる保津川にゴミが落ちたら危険なので、ガラス、金属、プラスチックの破片を大きな袋に集めて引き上げる。険しい坂での作業なのでスリリングな経験だけれど、慣れてきたら達成感も湧いてくる。大学生も参加していて、ゴミ拾い以外の面白い活動もある(嵐山の有名な「竹林の小径」の、竹で作られた塀の修理など)。興味があったら気軽に連絡してください!

## 編集後記

あけましておめでとうございます。今回の誌上教室は「関大生と旅行」です。その頁で人間健康学部の小室先生は、偉人たちの言葉を取り上げながら、旅と人生についての深い洞察を示してくださっています。旅と人生を重ねて考えると、両者の醍醐味は、新しい目を獲得して自己成長することなのだ。そのような目で、今度は巻頭特集「関西大学通信」バックナンバー出演者のあの人は今?」をみると、関大生たちの人生の旅の一片を垣間見ることができます。皆さんの新しい旅にエールを送ります! (広報委員・商学部教授 横山恵子)



## 関西大学通信 “KANDAI STYLE”

発行日: 2016年1月7日(年9回発行)  
発行: 関西大学広報委員会  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35  
電話: 06-6368-1121 (大代表)

## 今月の表紙

全日本学生賞典障害飛越競技大会(個人の部)で優勝した、体育会馬術部 松水優斗さん(文学部1年次生)と 全日本から引退する名馬 バーデン・バーデン号

高槻キャンパス 馬場にて撮影